



ワークショップの開催

中緯度北太平洋における大気・海洋相互作用



大気・海洋相互作用ワークショップ参加者

2011年9月15日と16日の両日、IPRCにおいて「中緯度北太平洋における大気・海洋相互作用」に関するワークショップが開催されました。近年の研究で、暖かい黒潮やメキシコ湾流は膨大な熱や湿気を大気に放出することにより、対流圏全層に強い影響を及ぼしていることが明らかとなりました。このような対流圏への影響は、大気循環の著しい変化を引き起こす可能性が高いと考えられるため、中緯度の大気・海洋相互作用の理解は、地域又は全球規模の気候を知る上で非常に重要です。現在、日本の科学研究費補助金「新学術領域研究」の研究課題として、東京大学先端科学技術研究センターの中村尚教授を中心に、北太平洋の大気・海洋相互作用を理解し、それが気候に及ぼす影響を明らかにするため研究が進められています。この研究課題に参加する日本人研究者のIPRC来訪に併せて本会合を開催し、最新の研究成果の発表や今後の課題や展望についての意見交換が行われました。（発表内容について、詳しくはIPRC Climate Vol.11, No.2, 2011をご覧ください。）